

医療経済実態調査 平成13年以降の歯科医院収支差額の変化

2008.07.25 のヒョーロン・ニュースにおいて、医療経済実態調査について（日歯は）「中央値で実態を把握してもらうよう中医協などに要請していく、とした。」とのニュースが掲載されています。

http://www.hyoron.co.jp/in/top_/0807/n080731_2.html

中央値での実態把握を要請へ

7月9日の中医協において報告された第16回医療経済実態調査(平成19年6月実施)によると、1施設当たり収支差額の個人平均値は122万9,000円、全体平均値は115万1,000円となっており、階級別では50～100万円、100～150万円の順で多い。日歯総研が歯科医業経営実態調査の平成8年と18年の収支差額を分析した資料によると、正規分布していた平成8年に比べ、18年では平均値と中央値の間で差が大きく開いている(図)。そのため、「医療経済調査結果が示す平均値は実態(傾向)を表しているのか、中央値で考えると変わってくるのではないか」(渡辺三雄常務理事)との懸念があるとし、平成19年のデータも分析し同様の差が明らかになれば、今後は中央値で実態を把握してもらうよう中医協などに要請していく、とした。

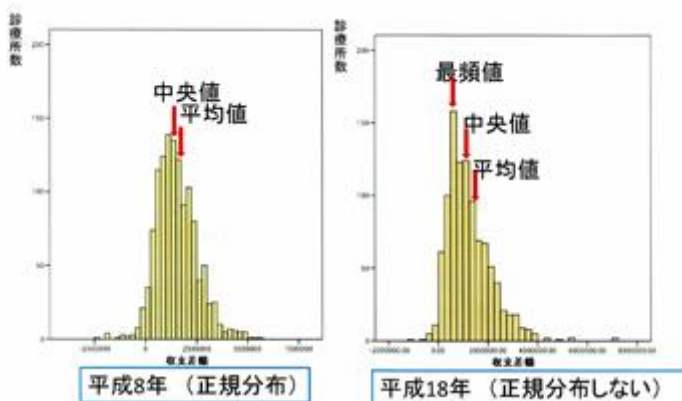


図 収支差額のヒストグラム

医療経済実態調査に出てくる、歯科医院の収支差額の変化を見ていきます。

全体のもの和个人のものを示します。

(ただし、個人分については平成13年は不明でした。)

個人立歯科診療所収支差額推移

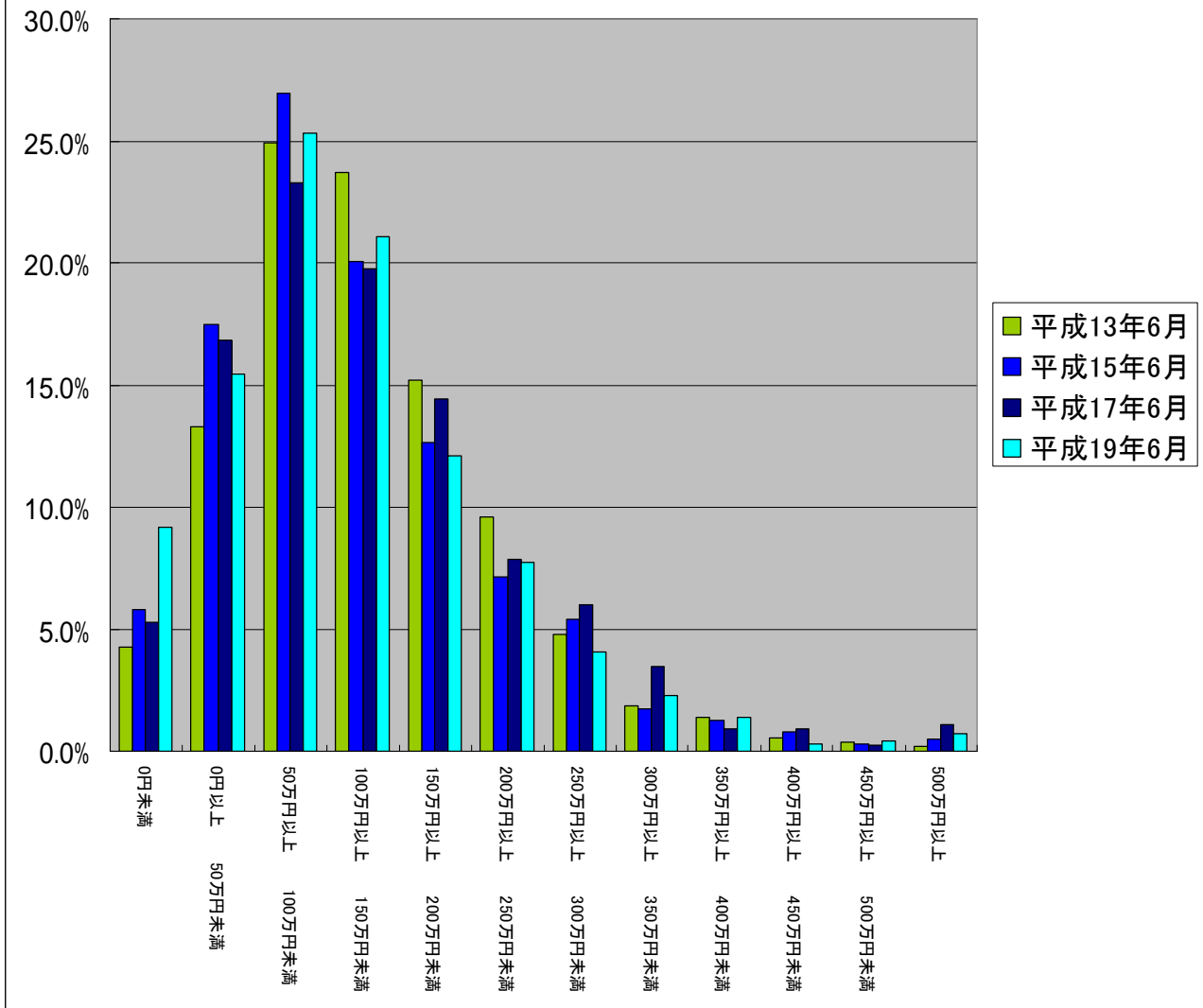
<http://www.minnanoshika.net/wiki/index.php?%B8%C4%BF%CD%CE%A9%BB%F5%B2%CA%BF%C7%CE%C5%BD%EA%BC%FD%BB%D9%BA%B9%B3%DB%BF%E4%B0%DC>

第16回医療経済実態調査の報告

<http://www.minnanoshika.net/wiki/index.php?%C2%E8%A3%B1%A3%B6%B2%F3%B0%E5%CE%C5%B7%D0%BA%D1%BC%C2%C2%D6%C4%B4%BA%BA%A4%CE%CA%F3%B9%F0>

のページも参考にしてください。

全体収支差額分布割合

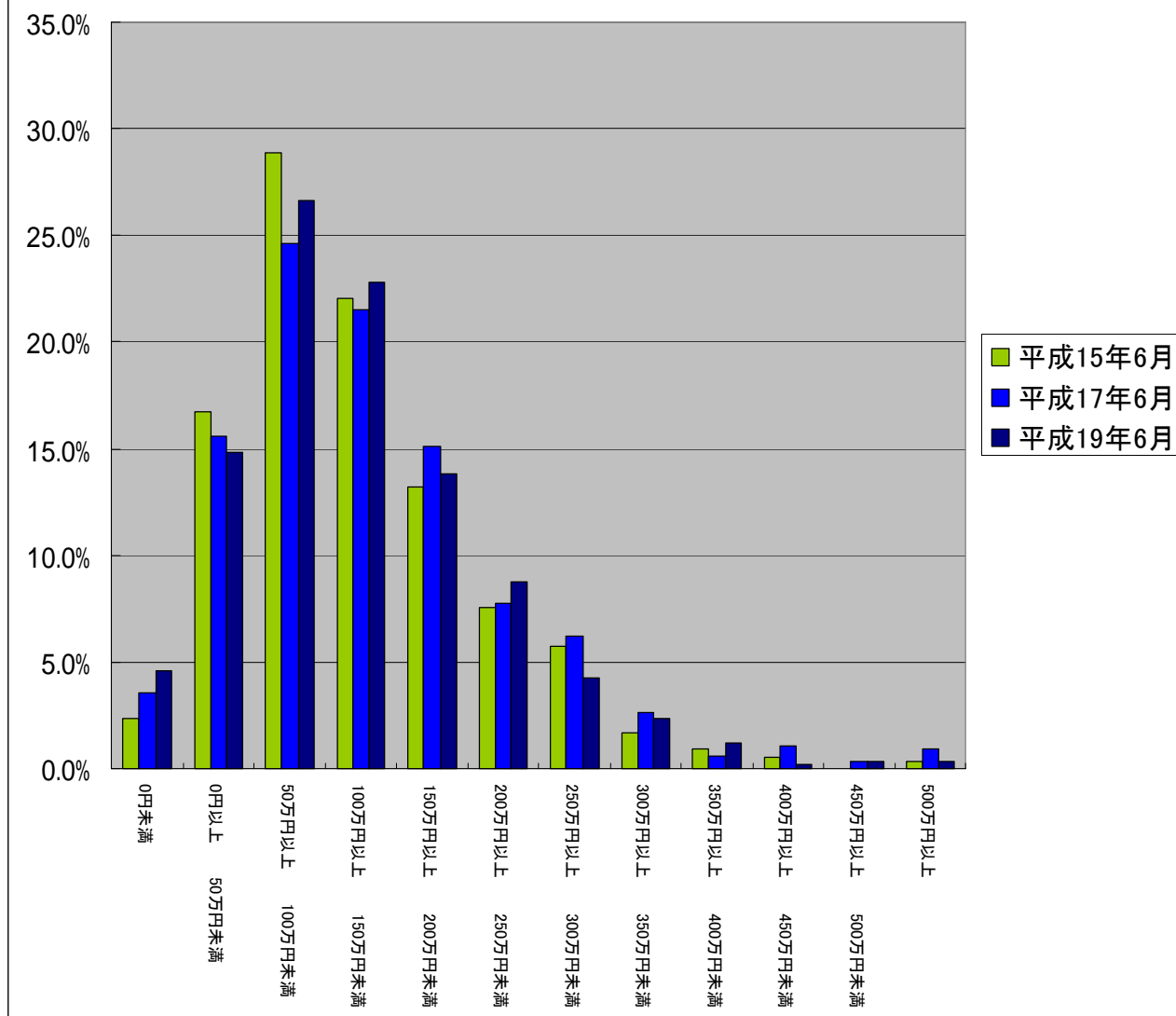


最も多いのは、50万円以上100万円未満、ついで100万円以上150万円未満となっています。

0円未満の階級が増加傾向にあります。特に平成19年調査では増加が著しいようです。

平成19年は、全体の収支差額の平均は1,151,157円となっています。

個人収支差額分布割合



「全体」と同じく、最も多いのは、50万円以上100万円未満、ついで100万円以上150万円未満となっています。

同様に、0円未満の階級が増加傾向にあります。

平成19年は、個人の収支差額の平均は1,228,997円となっています。

2008/09/04

みんなの歯科ネットワーク

チュー